



多国籍



外国人と日本人が一緒に楽しむ にっぽんの夏祭り

訪れたのは南区白羽町の砂丘(すなおか)自治会「夏祭り」。JR浜松駅前の大通りを南下して、海岸沿いの交差点を西に折れ、「さざんか通り」をしばらく行くとやがて右手に5階建ての市営住宅が広がる中田島団地が見えてきます。建物の間の公園には、広場の真ん中に立派な盆踊りの舞台がセットされ、夏祭りの会場であることが一目でわかりました。

提灯が吊るされた夏祭りの雰囲気満点の会場に足を踏み入れ、まず感じたのは、日本人と外国人がごく自然に、お祭りを楽しんでいるという光景でした。盆踊りの輪の中に外国人の少年たちが入り、炭坑節を楽しそうに踊る。いいにおいだと思ったら、近くでブラジル人の男性がシュハスコを焼いている。ビール片手にブラジル人が流ちょうな日本語で年配の



盆踊り会場でブラジル名物のシュハスコやサンドイッチを販売。砂丘自治会ならではの光景です



日本人も外国人も仲良く盆踊りに参加

女性と冗談を言い合う。こうした風景がここではごく自然なものに感じられます。陽が沈んでも立っているだけで汗が吹き出るとも暑い日でしたが、皆さんご近所同士で親睦を深め、にっぽんの夏を満喫していました。砂丘地区は、市内を代表する外国人集住地区の一つとして、共生に向けた取り組みが行われてきたいわゆる「多文化共生先進地」と言われています。こうした地区でカギを握るのは、やはりリーダーの存在。転入してきた外国人に、「団地のルールやゴミの出し方などを丁寧に根気強く説明してきた」と語るのは、自治会役員で日系ブラジル人二世の中村カツミさん。この地区を20年以上も前から支えてきたキーマンです。カツミさんは「この地区ではゴミ捨てや騒音などの苦情やトラブルはないよ」と胸を張りました。外国人のまとめ役として皆の先頭に立ち、共生社会に向けたカツミさんの奮闘は、これからも続きます。



自治会の皆さんも中村カツミさん(右端)には全幅の信頼をおいています

行ってみた



PERU



「フイエスタペルアナ浜松」

2017年7月23日(日)
@浜松市ギャラリーモールソラモ

駅前でペルーの魅力を感じて満喫!

年に一度、駅前にペルー人が集い、ペルーの音楽やダンスと食べ物を楽しめる「フイエスタペルアナ浜松」は、浜松在住1700人のペルー人なら絶対に見逃すことのできない一大イベント。場所はJR浜松駅北口を出て徒歩1分、遠鉄百貨店本館と新館との間の広場「ソラモ」です。会場に到着すると既に多くのペルーの人、人。そこはもう日本ではありませんでした。大音量の音楽が流れ、MCをはじめあちこちでスペイン語が飛び交っています。会場を見渡すと、ペルー料理などを販売するテントがずらり。エネルギーシユなペルーの皆さんでにぎわっています。日本人も遠慮はいりません。浜松に居ながらペルーの食文化を体験できる絶好のチャンスです。まず、最初に食べたのがペルー料理

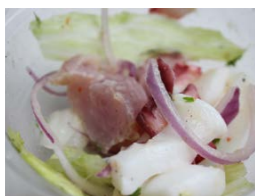
で一番有名な「セビーチェ」。白身やタコの刺身などの魚介にタマネギにレモン汁と香辛料で和えたマリネ料理です。酸味が何とも言えなく癖になりそうな味でした。次に挑戦したのは「パバ・ア・ラ・ワンカイナ」です。ゆでたジャガイモのチーズベースの濃厚ソース。シンプルな料理ではありませんが、クリーミーなソースとジャガイモがマッチしていくだけでも食べられそうです。ステージでは息の合ったペルー音楽やダンスに会場の皆さんはノリノリ。多国籍のパフォーマーが多彩な音楽・演技で来場者を魅了しました。浜松に居ながらペルーの音楽やダンスが楽しめる、名物料理も食べることができ、ペルーの魅力満喫した「駅前留学」ならぬ「駅前ペルー旅行」を楽しむことができました。



イベントのスタートはまずは敵かに国家斉唱から



みんなで踊って会場の雰囲気は最高潮!



スパイシーな酸味が癖になるセビーチェ



クリーミーなソースが決め手のパバ・ア・ラ・ワンカイナ



ペルーの名物料理が楽しめます